



音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

第53回はたらくものの音楽祭を開催します

2020年、2021年と新型コロナウイルス感染症のまん延により開催できなかった第53回はたらくものの音楽祭を、茨城県水戸市で開催いたします。音楽祭企画書をお読み取りのうえ、各支部、労組全国音楽協、サークル等の積極的なご出演と、会員と友人たちのご参加をお願いいたします。

2022年
9月3日(土) 12時30分
9月4日(日) 12時30分

■会場

ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨城県立県民文化センター)小ホール
茨城県水戸市千波町東久保697

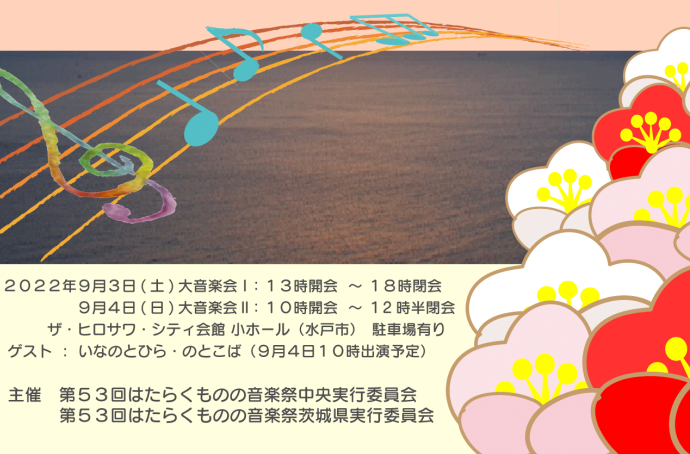
■テーマ

東雲(しのめ)に歌え 再興を
今こそ労働運動の前進を
ゲスト
いなのとひら・のとこば
(9月4日10時ごろ出演予定)

■出演申し込みは、7月19日(火)までにエントリーしてください。

東雲に歌え 再興を 今こそ労働運動の前進を

The 53rd music festival of workers 第53回はたらくものの音楽祭



2022年9月3日(土)大音楽会Ⅰ: 13時開会 ~ 18時開会
9月4日(日)大音楽会Ⅱ: 10時開会 ~ 12時半開会
ザ・ヒロサワ・シティ会館 小ホール(水戸市) 駐車場有り
ゲスト: いなのとひら・のとこば(9月4日10時出演予定)

主催 第53回はたらくものの音楽祭中央実行委員会
第53回はたらくものの音楽祭茨城県実行委員会

第53回はたらくものの音楽祭茨城県実行委員会

実行委員長	内山 裕	連合茨城
副実行委員長	市川 信義	日音協茨城
事務局長	金田 光弘	日音協茨城
事務局次長	坪 明弘	連合茨城
実行委員	小坂 祐之	電機連合
実行委員	中島 智美	UA ゼンセン
実行委員	柳生 貴史	自治労
実行委員	梅原 清活	基幹労連
実行委員	重藤 恵	日教組
実行委員	石津 隆宏	自動車総連
実行委員	山本 勇	JAM
実行委員	小澤 仁	JP 労組
実行委員	高野 真幸	電力総連
実行委員	小野瀬悠太	情報労連
実行委員	岡山 昌弘	私鉄総連
実行委員	江崎 文雄	日音協茨城
実行委員	久保田栄一	日音協茨城

第53回はたらくものの音楽祭中央実行委員会

実行委員長	松本 敏之	日音協会長
副実行委員長	佐藤 康弘	日音協副会長・青森県支部長
副実行委員長	坂口 美日	日音協副会長
事務局長	金田 光弘	日音協事務局長
実行委員	佐藤 和弘	北海道支部会長
実行委員	村岡 厚史	秋田県支部長
実行委員	高橋 伸明	岩手県支部会長
実行委員	南條 善徳	福島県支部長
実行委員	市川 信義	茨城県支部長
実行委員	松本 政夫	千葉県支部長
実行委員	狭石 啓子	東京都支部長
実行委員	板井 悌二	新潟県支部長
実行委員	下條 広道	長野県支部長
実行委員	鴨野 浩一	富山県支部会長
実行委員	高田 良徳	香川県支部長
実行委員	塚本 和乃	九州支部長
実行委員	細川 剛	日音協幹事
実行委員	後藤 雅裕	日音協幹事
実行委員	塚本 昇	日音協幹事
実行委員	竹内 崇志	日音協幹事
実行委員	根本 賢治	日音協幹事
監査	磯野 宏之	日音協監査
監査	山城 文雄	日音協監査・沖縄県支部長

第53回はたらくものの音楽祭（茨城・水戸）企画書

● 参加規模 300人×2日

● 日程 2022年9月3日（土）～4日（日）

	2日（金）	3日（土）	4日（日）
午前		○リハーサル	●大音楽会2 10:00～12:30 支部、単産、音協等
午後	○仕込み 13:00～	●大音楽会1 13:00～18:00 サークル等 (演奏6分+出入2分)	○あとかたづけ 13:00～15:00
夜	○リハーサル (希望があれば) ～20:00	※全国交流会を予定 8/7の幹事会にて、判断します。	

*開始、終了時刻は、出演団体数によって今後変更することがあります。ご了承ください。

- **出演** 日音協支部・単産音協・サークル・ゲスト・ほか
出演時間は1単位6分としますが、構成上多くかかる場合には中央実行委員会事務局と協議ください。
- **出演申込** 出演申込締切は、7月19日（火）をエントリーの締切とし、出演団体（者）名、代表者、連絡先、演奏時間と出演希望日（ある場合）を明らかにして申し込んでください。
出演内容（曲目等）の締切は、7月30日（土）とし、出演申込書により申し込んでください。
なお、司会原稿と舞台配置図は、8月19日（金）締切とします。
※出演申込書・司会原稿・舞台配置図等は、各支部等に送付済みですので、「音楽運動」にはスペースの関係で掲載しません。お問い合わせは日音協事務局まで。
- **企画もの** 茨城県実行委員会としてオープニング（合唱）とスポットライトを計画します。中央実行委員会企画としては、ゲストに「いなのとひら・のこぼ」をお迎えするほか、この1年間の活動としてメーデー合唱団、若い会員の交流会ほかをステージ化します。
スポットライトを例年どおり募集します。日音協支部または茨城県実行委員会の推薦が必要です。締切は7月19日とします。
- **スタッフ** 日音協全国に要請するとともに、茨城県実行委員会にも協力をいただきます。
- **予算** 日音協音楽祭特別会計予算によります。
プログラム冊子については有料（500円）とします。
実行委員会企画として依頼されたサークル・団体以外は、単位ごとにエントリー料として10000円を負担していただきます。
物資販売等については、今後検討することとします。
- **宿泊** 宿泊は参加者それぞれで手配してください。なお、日音協幹事会は大宮第一ホテル別館（茨城県水戸市中央2-3-23 029-227-1111）です。
- **全国交流会** 全国の仲間の交流を図るため、全国交流会を開催することとして準備を進め、感染症の状況を見極めて決定します。（8/7の日音協幹事会で判断します）
なお、会場は、「ザ・ヒロサワ・シティ会館（県民文化センター）内レストラン」を予定しています。
- **感想メモ** 支部ごとの感想メモ（記入依頼）に、日音協全支部・労組音協のご協力をお願いします。
- **その他** 練習会場を希望する場合は、出演申込書でお申し込みください。
9月3日の午前中（とくに必要な場合は9月2日夕も）は舞台でのリハーサルをします（遠しげいこではありません）。実行委員会企画を優先しますが、リハーサルを希望する団体は8月19日までに申し込んでください。なお、申し込み多数の場合は、実行委員会が優先順位を決めます。

新潟県支部総会後 支部コンサート開催



板井支部長あいさつ

感染症対策をしながら開催しました。

支部総会開催、今後の方向性を確認

5月15日、柏崎市文化会館アルフォーレで「日音協新潟県支部第6回総会」を開催しました。

板井支部長のあいさつ、松本日音協会長からのメッセージ披露後、2021年度の活動報告・決算報告、2022年度の活動方針・役員体制・予算案を提案し、すべて承認されました。

月1回の定例練習が定着してきた中で、2022年度は、新潟県支部として今後に向けてさまざまな活動を積極的に進めていきます。（竹内 崇史）

【2022年度新潟県支部役員】

支部長	板井 悌二
副支部長	樋口 秀敏
副支部長	竹内 崇史
事務局長	山本 英二
会計担当	山本 すいの
監査	高木 正則

総会の写真は撮ってなくて、支部コンサートの写真のみの報告となります。



会場風景



高林さん



山本さん

清水さん



With Caution Band



高野さん

竹内さん



会場風景



支部長も演奏

音楽を創るといっていいよ②

川口真由美さんに聞く

【この内容は、日音協HPに7月5日公開予定です。】

プロフィール

京都の作業所で働きながら3人の子どもを育てる傍ら、作業所で働きながらこの国を変えたいと思うようになる。以降、様々な闘いの現場にギターを抱えて参加し自分の思いを歌に込め歌ってきた。

2017年夏、東京で開催された『第50回はたらくものの音楽祭』にスポットライトで出演し、観衆の心をわしづかみにした。また、同年初、沖縄の闘



【音楽との出会い・真由美さんにとつての音楽は？】

替え歌が上手で創作能力に長けた母の影響で、育った団地の中で替え歌対決をやったりなど、人前で表現することを行

◆インタビューダイジェスト編（インタビュー日：2022年6月28日）◆

いの現場を歌でつなげ広める姿を記録したドキュメンタリー映画『レジスタンスなう！』が作成され、台湾で開催された『第2回アジア国際映画祭』で新人主演女優賞を受賞した。そして現在も、障がい者施設代表を務めながら、路上やライブハウス、沖縄をはじめ全国の闘いの現場で歌い続けている。

つこう小さい時から経験してましたね。それらはいまも私の原風景になってると思います。5歳からエレキトーンを習ったので、コード進行とか3和音などもその時期に確実に入ってきましたね。

歌を創り始めたのは、10代から。いつもメモ帳を持ち歩いて、思ったこと、あったこと、腹たつこと、恋愛のこととか、浮かんだ言葉をその場で、バートと書いて、携帯を使うようになってからは、浮かんだメロディーを録音して、後からそれを歌にするとか、そういう作業が好きやったんです。その当時はただ歌を創るのが面白かったという感じがですね。民謡をやっている方との出会いもあった、こぶしをつけて歌うとかもやってましたね。

20代に作業所で働き出した時、ギター弾いてみんなとめっちゃ楽しそうに歌ってはる人がいて、自分もやりたいと思って必死で練習を始めました。子どもを育てながら昼も夜も働いてた時だったんですけど、ギターを練習したことで心が折れそうになってもがんばれたと思ってます。そして、障害のある人も一緒にバンドでやるようになって「素でやっていいんや」と確信しました。

そうやって作業所で働किながら、障害がある人たちを取り巻く環境の問題が自分にも関

係があると思うようになって、それを歌にして歌うようになったんです。そしてたある音響さんから、「歌は上手なのに、そういう歌を歌っていると損をするよ」といわれてビックリしました。でも、やっぱり、ぼやかしたり、ほんわか歌うことは私はできないし、あったこと、自分が思っていることを歌いたいと思って、いまも辺野古とか色んなところに出かけて歌っています。

【沖縄に行こうと思ったきっかけは？】

駅前で反原発・平和を訴えて歌っていたら、車椅子の方に「あなたは浮いているよ。でも、沖縄ではきつと届くよ、沖縄に行つて歌ってみないか」と誘っていただいて、車椅子を押してサポートしながら、沖縄の運動に参加させてもらったんです。そして、高江に行つて、『24時間の闘い』という言葉に驚いたし、辺野古の話や対馬丸事件の話を聞いて怒りを感じ、それから沖縄には結構まめに通うようになりました。そして2014年7月から始まった辺野古の座り込みが、コロナで自粛になるまで参加してました。



【歌が生まれる時】

自然や花の美しさとか、虹とか一般受けするような言葉で、は歌が作れないんです。想像がつかないんです。私の場合、見たこと、感じたことからしか歌は創れないと思っています。辺野古に行ったり、苦しい人の話を聞いたりして感じたこと、あったことをずっと考え続けてますね。思ったこと、浮かんだ言葉、フレーズをメモしたり録音して、そこから、膨らましていくというか。ひとつの歌ができるまで、ずっとそのことばかり考えてますね。歌ができるまで3ヶ月ぐらいかかることもあるし、短期間でできることもあります。

沖縄の闘いではあまり歌わない『石ころ』という歌を、ミヤンマーの現状を歌う時に必ず歌うということがあって、そのときの主観で創った歌が、その後の状況でまた歌うようになつたり、自分を救ってくれたり、ああ、創っておいて良かったとか、想像してなかったことがあったり。

逆に『We shall overcome』のようなみんなが歌える歌を創るのは、めっちゃ難しい気がします。自分には適してないから創らなくても良いかなと思ったり、でも創ってみようかなと思ったり、常に意識はしてるんだけど難しいですね。

(5面につづく)

日音協セミナー「黒と白の狭間で」 ～ワールドミュージックの教え～

「書くことのできる音楽、書かれない音楽、書くうと思えば書けるけれど書こうとしない音楽があることを再認識する。」一強烈です。私はどちらかといえばクラシック畑、まず楽譜ありきでした。それがない音楽、拍子や小節線がない音楽、どう理解したらいいのやら。

ブルースはシンプルな構成でとっつきやすい。アフリカのポリリズムとなると、「楽譜が存在せず数字ではあらわせないもののよう」。ジャンベでの演奏、何か変わったなと思うが、ずれやシンコペーションを聞き取ることは出来なかった。

奄美民謡の沖縄（C、E、F、G、B）とは違う音階（C、D、F、G、Bb）は聞こえ方が変わり興味深かった。今回の講演の中心とされた合唱作品「飛ぶ橋」は、小熊秀雄の詩をどのようにリメイクし、どのようになるべく合唱にならないようにアレンジしたか、を聞いたかったが時間が足りず消化不良。ひょっとしたら参加できなかった後のコンサートで実演されたのでしょうか。（香川・細川）

■6月4日、日音協セミナーを開催。谷森駿（港大尋）さんの講演会と、笠村勇樹さんと小笠原もずくさんを交えたコンサートをズームおよびYouTubeで配信しました。コンサートについては近々オンラインの予定なので、細川さんの感想を活かすために、講演会の内容を少し紹介します。（佐藤）

●谷森駿さんのレジュメより抜粋

（講演会の内容は別途まとめたいと思います）

・ブルースと共に

幼少の頃から米国の blues（発音は正式にはブルーズ）に親しんできたので、まずはこれを軸にお話を進めたい。

ブルースとは

★起源は黒人の方たちのワークソング、労働歌と言われるが、録音以前のこと（19C 以前）なので分かっていないことも多い。ただし、辻音楽師、説教師、物売り、ゴスペルなど、手がかりは全くはない。

★周知のように奴隷貿易は既に 15C から始まっており南北戦争の終結・形式上の奴隷制の廃止（1865年）ごろには既にブルースがあったと推測されるが、楽譜も存在しないので確証なし。

★残存する最初期の録音に、マ・レイニー、ベッシー・スミス、レッドベリー、ロバート・ジョンソンらがいる。多くは3行詩、12/8、スリーコードなどの特徴。

・アフリカ音楽（とはいえ、土地があまりに広大なので、かなり大雑把な呼称）のひとつの特徴としてポリリズムがある。簡単に言えば2拍子と3拍子が混在するリズム。6/8 や 12/8 が多く聞かれる。が、大抵の場合、やはり楽譜が存在せず口頭伝承によるものなので、…。（申し訳ありません。以下略）

日音協の日程（予定）

7/30～31 全国代表者会議

7/31 第9回日音協幹事会

8月 はたらくものの音楽祭茨城県実行委員会

8/7 第10回日音協幹事会

9/3～4 第53回はたらくものの音楽祭（茨城）

11/12 日音協全国総会

『今後目指したいこと』 （4面からつづく）

闘いの中で歌われている歌が、いまは街の中では全然流れていないですね。どうしてなのか？というところをもっと分析しないといけないと思っています。そうやって音楽を見た時に、どうやって広げていくんだろうというところに戻っていくって、余裕がなくて広がりにくい中で、どうしたら良いんだろうと思います。でも、自分が見てきたこと、やってきたことに自信をもって、伝えていこうと思います。政府には負け続けていく感もあるけど、権力を持っている人たちを縛るための憲法

だけは絶対離したくないと思うし、そこを音楽でどこまでやれるか、音楽でどう抵抗できるか、ですね。そしてそれを面白くやって「面白いやん、あのひと」っていう感じで人がついてくるのかでできへんかな？と思っています。

日音協で印象的だったのが、私が出させてもらった時（第50回はたらくものの音楽祭）に、歌われて後で亡くなられた方がいたじゃないですか、ギターをひかれてた男性の方（狭石利美さん）。あの時ね、私ね、あの方が病氣だとか知らなかったけど、でもあのステージ聴いて「あの人すごい！」って思ってた、なんかすこく迫るものがあったんです。あの後亡くなられたというのを聞いて、歌いたい思いがあって、伝えたいものがあって、すこく歌にむきあってはったんやな〜と思いました。あんなぐらい、やっていきたいですね。苦しかったり辛かったり、色んなことも言われますけどね。そういう中で、これから出てくる若い方も大切にしたいですね。

【その他】

路上、コンサート、集会とかいろんな場面で歌っていると音楽に対する扱いは色々あるけど、でも同じことを目指しているという思いで声をかけられたいら出かけて行きます。でも、

運動の中の音楽を本当に大事にしてほしい。運動をやっている人にこそ、コンサートとかにきて、歌を聴いて感動してほしいなと思います。



日音協沖縄行動でも交流しました

歌の力が物語るもの

107

茶葉坂つた行動 6/24 (446回) 報告 R i c o

【参加者】スーさん、イサさん、モリヤさん、達哉、森 計5名

3日前が夏至だったから、きつと今日が一番、最後まで明るい茶葉坂つた行動なんだろう。

旗を立て、虫除けスプレーを吹きかけ、準備を整える。今日は警察官が少ない。選挙で出払っているかな。モリヤさんが東京新聞の拡大コピーをフェンスに貼った。「これ、けっこう目を引くのよ。」と。東京新聞6月3日の第1面。『防衛費倍増「5兆円」あつたら何がでるのか?』の表が秀逸。大学授業料の無償化1・8兆円、給食無償化4386億円、年金受給者全員に月額1万円増額4兆8612億円…。私

も、息子の障害者年金の減額が知らされたばかりなので「武器なんか買っていないでこっちにこせよ!」と本当に思う。

『あたりまえの地球』から歌い始める。『私たちは許さない(原発ハーシジョン)』。原発を「安全を確認して再稼働」って岸田は言うけど、「安全って何?」と聞いてみたい。」とイサさんが言う。福島集団訴訟は「想定外だから責任はない」みたいな判決だった。だったら想定外の無い「安全」を確認して見せろよ。そもそも「想定外」が多すぎ。想像力が足りなすぎるでしょ。

昨日は沖縄慰霊の日。沖縄を思う。『月桃』『シユコンのすむ海』『芭蕉布』『辺野古旅情』『心

るさと沖縄。平和の礎に刻まれたお名前を読み上げるのに250時間を要したという。未だ親族の元に帰れない遺骨もあり、混じっているかもしれない土砂が、辺野古の埋め立てに使われようとしている。刻まれたお名前と遺骨とが重なって、その惨さに怒りが増す。私はどうしても、名前を公にされないやまゆり園事件を思い浮かべてしまふ。偲ぶために、忘れないために、名前の存在は大きい。

通り過ぎる人の中、若い女性に「こり」と会釈していった。歌の途中だったので会釈を返すしかなかったが、嬉しくて盛り上がった。「若いお姉さんが会釈してくれ!」「若いきれいなお姉さんだった!」「いや、『若い』は大事な要素だけど『きれいな』『お姉さん』は必要要素か?」など、変な風にも盛り上がった。そしてそのあとでも二人連れが歌に対してリズムをとりながら笑顔

を向けて行くなど、嬉しいことが続いた。

『大きな橋』『声よ集まれ歌となれ』を歌い、終了時間も迫りラスト2曲、スーさんのリクエスで『友よ』を歌った。そして最後は『風車の唄』。国会議事堂は薄闇にライトアップされている。オリンピックでは言われなかった『電力不足』が、今盛んに言われている。ライトアップだって消せばいいのに、嘘が透けて見えるようだ。

水道橋
だより

▼6月は私が唯一の専従者をつとめる一般社団法人栃木県地方自治研究センターが、栃木県平和運動センターのご協力を得て、県内5ヶ所の憲法講演会を連続学習会として開催しました。昨年10月の衆議院議員総選挙の結果を受けて、今年2月から5月までの間に衆議院で14回、参議院で5回の憲法審査会が開催され、この7月の参議院議員選挙の結果が焦点にならないと限らない、という中ですから、てんやわんやになりながらやり切りました。参議院選挙、残る日数はわずかですが、後悔しないようにできることをやりきりたいですね。(松本)

▼茨城音楽祭で初めて舞台監督の任務となった坂口副会長の意気込みが現れるかのように、実行委員のLINEグループが立ち上がった。日々の組合周りの様子なりツブヤキが共有されています。それぞれの人柄も現れています。舞台スタッフのLINEグループも立ち上がっています。コロナの状況も侮らず準備していきたいものです。(佐藤)

▼谷森さんのコンサートで『金(カネ)がない』という歌を聴いて、身につまされた。とにかく「カネがない」という歌なのだが(谷森さん、ゴメンナサイ)、2人の娘の父親の私。たまにくる電話の要件はお金の無心。次女などは普段と違う「猫撫で声」ですぐわかる。年金暮らしで金がないのは分かっているだろうが、…。結局、父親のメンツもあり、金を工面してやり、自分が返済で苦勞する。回収率は30%ぐらいかな?(佐藤)

どん行

(156)

飯島貞親

員2700人。この貧弱

さでは、国民を安心させるだけの態勢は築けない▼岸田内閣の口先だけの「やってくるフリ」政治に騙されてはいけない。

▼コロナ禍との2年半に及ぶ戦いの総括として、厚労省に「感染症対策部」とその下の「日本版CDC」が新設されることになった。CDCは「疾病対策センター」のこと、米国の同名の組織のマネである▼保健所は、1991年には全国に852カ所あったのが今では468にまで減らされた。しかも、他の福祉行政機能と一緒にされて「地域健康福祉センター」などと名称も変わり、専任の医師や保健師がいなくなるところもあって、単に他の医療機関を紹介するだけの電話相談センターの役目しか果たせなかったところが多い▼自治体病院も、1991年から17年までに133が閉鎖させられている。合理化・民営化の名の下に30年がかりで進められてきたこのような地域医療の荒廃化にここでストップをかけ、土台から立て直すのであれば日本の医療はお先真っ暗だ。本気でやるなら、米CDCのように約1兆円の予算と1万人の職員を備えるくらいの構想を描いて欲しいものだが、日本版CDCのベースとなる国立感染症研究所と国立国際医療研究センターは合わせても予算規模600億円、人